

「祈る前から神は」

詩篇 第40篇 3節～4節
マタイによる福音書 第6章 5節～8節

説教 岡村 恒牧師

ペンテコステの日、主イエスの弟子たちに聖霊が降りました。この日、聖霊を注がれて初めて、弟子たちは神について、主イエスについて本当のを知ることができるようになりました。「見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイによる福音書 28章20節b)と言われた主イエスの約束が実現したのです。そうして、聖霊を注がれた弟子たちは、祈り始めました。

主イエスは、偽善者のように、異邦人のように祈らなくても良い、と教えて下さいました。お面をかぶって演技をする偽善者のように、口先だけのお祈りを人に聞かせるために祈らなくても良いのです。本当の神を知らない異邦人のように、神の名前を繰り返して呼んで、くどくどと祈らなくても良いのです。かつてエリヤがカルメル山でバアルの預言者たちと対決した時、偽の預言者たちは、バアルの名を叫び続けました。(列王紀上 18章26節)

主イエスは、「あなたがたの父なる神は、求めない先から、あなたがたに必要なものはご存じなのである。」(8節)と言われました。私たちが祈りについて誤解をしてしまうのを、主イエスはよくご存知でした。熱心に、りっぱな言葉で、休まず祈り続けたら神は聞いて下さる、と私たちは思い違いをします。「求めよ、…探せ、…門をたたけ…」(7章7節)という御言葉を聞いて誤解してしまうのです。主イエスは、本当に必要なものを求め、探すべきお方を捜し、たたき戸をたたいたら良いと言われたのです。そしてその上で、「まず神の国と神の義とを求めなさい。」(6章33節)と言われたのです。

主イエスは、全知全能の神に向かって、「天にいますわれらの父よ」と呼びかけて祈ったら良いとお教えになりました。(6章9節)神が天地を創造される前から、主イエスは神と共におられました。私たちのために、私たちの必要を満たそうと用意して下さいました。律法を完成するために来た、と言われた主イエスは、私たちの必要をずっと以前からご存知でした。

主イエスは、私たちのために「助け主」を送ると約束して下さい、その通りにして下さいました。(ヨハネによる福音書 14章16節)私たちが無くてはならないものを求めて与えられ、生きるようになるためでした。私たちが本当に必要なものは、罪の赦しです。永遠の命です。父

なる神は、私たちがこの罪の赦しを得て、命の糧を受けて生きる者となるように、私たちのために救いの約束を用意し、その完成を待ち構えておられます。

あの日、弟子たちに降り、私たちに注がれている聖霊は祈りの霊です。私たちに言葉を与え、私たちの心を高く引き上げて、「天の父よ」と呼びかけさせる御霊です。「わたしたちはどう祈ったらよいか分からないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さい。」(ローマ人への手紙 8章26節)のです。主イエスの霊が、私たち一人一人の内に注がれて、言葉にならないうめきをもって執り成して下さいています。

2千年近く前に弟子たちに降った聖霊は、今、この聖堂にあふれています。私たち一人一人に働きかけ、語りかけて、父なる神に祈らせて下さいます。どこか遠くにおられる神に向かって、叫ぶように祈らなくても良いのです。私たちと父なる神の間には、直通のホットラインが通じています。ペンテコステ(聖霊降臨祭)は、この直通ラインが開通したお祝いの日なのです。

今日はまた、「花の日・こどもの日」の聖日です。神がこの世界をお造りになり、私たちの手にお委ね下さったことを知り、感謝します。私たちにこどもたちが委ねられていることの意味深さと責任を思い、神に祈ります。花や自然、こどもたちに目を向けつつ、私たちは祈ります。神の御名がいよいよ誉め称えられ、私たちに神の助けと力が注がれるように。この祈りは、神がお造りになった世界全体を包み込んでいます。御子の霊がこの世界を握りしめ、網の御業を実現しておられます。

今日ここで、目に見えない罪の赦しのしるしである洗礼をうける姉妹方に、約束の賜物として聖霊が注がれます。今日から後、御子の霊がこの2人の内に住み、聖霊の宮として、一日一日お2人を造り変えて下さいます。私たち一同もまた、繰り返し味わう聖餐の食卓を共に囲みながら、終わりの日を待ち望んで歩みます。

無くてならない命を求めて、父に祈る者に、父なる神はお応え下さいます。祈る前からその必要をご存知なので、求める者に救いの喜びを与え、神の子として歩ませて下さいます。

(記 岡村 恒)